

昭和五十一年九月招集

第三回館山市議定会定例会會議錄第一号

館山市議會

目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	二
議事日程	二
開會	三
議長の報告	三
議案の配付	三
會議録署名議員の指名	三
会期の決定	三
提案理由の説明	三
認定第一号、認定第七号	五
報告第四号	五
議案第五十四号、議案第五十九号	五
休會	二六
延會	二六
本日の會議に付した事件	二六

(内容説明)

一、昭和五十一年九月十三日(月曜日)午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十九名

出席議員	一 番 吉田 勇治郎	二 番 伊藤 幸太郎
	四 番 押元 稔	五 番 黒川 平治
	六 番 鈴木 正義	七 番 本間 昭二
	八 番 松下 正己	九 番 鈴木 好雄
	一〇 番 流山 源次郎	一 番 近藤 好雄
	一二 番 栗原 一雄	一 番 林 豊
	一四 番 石井 輝久	一 番 辻田 実
	一六 番 安西 益男	一 番 石井 武敏
	一八 番 渡辺 軍治郎	一 番 渡辺 昭夫
	二〇 番 和田 一郎	二 番 田中 禄郎
	二二 番 五十嵐 昇	二 番 菊井 敏博
	二四 番 西村 真次	二 番 伊賀 多朗
	二六 番 藤田 益治	二 番 遠山 ヨネ子
	二八 番 石井 正	二 番 望月 照正
	三〇 番 山口 康	
欠席議員	一名	
出席説明員	三 番 穴戸 寿夫	
市 長	半沢 良一	助 役 吉野 茂樹
収入 役	長谷川 広治	秘書 課 長 斉藤 武男
人事 課 長	太田 博雄	企 劃 課 長 補 佐 吉田 清一
庶務 課 長 補 佐	蜂谷 達二	財政 課 長 山田 俊康

市民課長	横溝功	稅務課長	小倉澄男
収納課長	高山隆男	商榷光課長	中村正雄
農水産課長	岩崎一郎	保健課長	越路良夫
衛生課長	石井謀	建設課長	飯田治男
防災課長	羽山房雄	市民センタ長	角田一
鳩山支配人	飯田忠男	福祉事務所長	山口
水道課長兼衛生課主幹	大嶋重義	教育長	安田豊作
教育委員会庶務課長	汐崎政光	教育委員会学校教育課長	佐野啓男
教育委員会体育課長	川上賢爾	教育委員会社会教育課長	川名備
選挙管理委員会書記長	榎本繁	監査事務局長	吉岡政雄
農業委員会事務局長	石原斉		
一、出席事務局職員			
事務局長	高尾豊	事務局長補佐	石井敏夫
書記	兵藤恭一	書記	鈴木哲
書記	福田英雄		
一、議事日程(第一号)			
昭和五十一年九月十三日午前十時開議			
日程第一 會議録署名議員の指名			
日程第二 会期の決定			
認定第一 一号	昭和五十年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について		
認定第二 二号	昭和五十年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について		

日程第三十

認定第三 三号	昭和五十年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について
認定第四 四号	昭和五十年度館山市国民宿舍特別会計歳入歳出決算の認定について
認定第五 五号	昭和五十年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について
認定第六 六号	昭和五十年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について
認定第七 七号	昭和五十年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について
報告第八 八号	安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出について
議案第五十四号	安房郡市広域市町村圏事務組合規約の一部を改正する規約の制定について
議案第五十五号	館山市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第五十六号	館山市粗飼料等増産基盤整備事業分担金徴収条例の制定について
議案第五十七号	字の区域及び名称の変更について
議案第五十八号	昭和五十一年度館山市一般会計補正予算(第一号)
議案第五十九号	昭和五十一年度館山市国民宿舍特別会計補正予算(第一号)

開 会 午前十時八分開会

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十八名、これより昭和五十一年第三回市議会定例会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議長の報告

○議長（吉田勇治郎君） 本定例会議案審議のため、地方自治法第百二十一条の規定による出席要求に対し、お手もとに配付のとおり出席報告がありましたので御了承願います。

なお、監査委員より六月乃至八月実施の監査の結果が報告されており、それぞれお手もとに配付の印刷書により御了承願います。

議案の配付

○議長（吉田勇治郎君） 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。――配付漏れなしと認めます。本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

会議録署名議員の指名

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、会議録署名議員の指名を行います。

一四番議員石井輝久君、一七番議員石井武敏君、以上両君を指名いたします。

会期の決定

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、会期の決定を行います。

本定例会の会期につき、議会運営協議会の意見は、本九月十三日から九月二十七日までの十五日間ということであり、

お諮りいたします。会期を十五日間と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって会期は九月十三日から九月二十七日までの十五日間と決定いたしました。

提案理由の説明

○議長（吉田勇治郎君） この際本定例会招集につき市長のあいさつ並びに提案理由の説明を求めます。

（市長半沢良一君登壇）

○市長（半沢良一君） 本日ここに第三回市議会定例会を招集し、当面する諸案件について御審議をお願いすることといたしました。が、議員の皆さま方におかれましては御多忙の中を御出席賜り、まことにありがとうございます。

さて、今回提出いたしました案件は、認定関係七件、報告関係一件、一般議案四件及び補正予算二件でございます。

以下概要につきまして御説明申し上げます。

認定関係といたしましては、昭和五十年度の一般会計及び特別会計の決算を終りましたので、監査委員の意見をつけて議会の認定に付するものであります。

報告関係といたしましては、安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出についてであります。が、本市が同改良区の借入金に対

して損失補償をしている関係から、地方自治法の規定により報告するものであります。

議案関係といたしましては、まず議案第五十四号安房郡市広域市町村圏事務組合規約の一部を改正する規約の制定についてであります。現在安房郡市広域市町村圏事務組合におきましては執行機関の制度として管理者制がとられておりますが、今回組合の構成団体である関係市町村の立場がより組合の執行機関に反映されるよう、また執行機関の組織については各市町村において同様の責任の立場にある市町村長によって構成されるのが望ましいとの趣旨に基づき、現行の管理者制から組合の構成団体の市町村長を理事とする合議制の理事会を設置しようとするものであります。

さらに、この改正に伴いました組合議会の組織及び議員の選出方法等についての所要の改正、そのほか組合の共同処理事務、収入役、監査委員、事務局等の規定についての改正及び整理であります。

次に議案第五十五号館山市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。このたび消防団員の退職報償金の支給額を定めた消防団員等公務災害補償等共済基金法施行令の一部の改正がなされ、消防団員の処遇改善の一環として退職報償金の引き上げ措置が講ぜられたことに伴い、本市の条例を改正しようとするものであります。

次に議案第五十六号館山市粗飼料等増産基盤整備事業分担金徴収条例の制定についてであります。畜産飼料としての牧草、飼料用麦、稲わら等の粗飼料を中心とした飼料の増産と、その効率的な利用を図るべく、農林省で作成した緊急粗飼料増産総合対策

事業実施要綱に基づいて、本年施行される飼料畑、牧草地造成事業及び既耕地整備事業に要する費用について、その費用から国、または県からの補助金を除いた額の範囲内で、当該事業により利益を得る者から分担金を徴収するものであります。

次に議案第五十七号字の区域及び名称の変更についてであります。が、館野、九重地区における県営ほ場整備事業の施行に伴う換地処分を実施するために字の区域及び名称を変更する必要があるためであり、事業主体の千葉県知事からその変更についての依頼がありましたので、地方自治法の規定により議会の議決を求めるものであります。

次に議案第五十八号昭和五十二年度館山市一般会計補正予算であります。今回歳入歳出予算補正として一億四千八百七十一万八千円を追加しようとするものであります。

歳出のうち主な内容のものを申し上げます。まず全般にわたるものとして、当初予算審議の際各種団体補助金及び委託料につきまして一部補正予算により措置する旨申し上げましたが、今回再検討いたしました結果、その所要額として総額におきまして一千五百六十三万九千円をそれぞれ計上しました。

次に議会費におきましては、衛生センター建設計画に伴う先進地視察旅費として百五万円。

総務費におきましては、千葉県市町村総合事務組合負担金として、勤奨退職分に伴う負担金の増加分千二百二十九千円、税収入還付金及び還付加算金として二百七十六万六千円。

民生費におきましては、九重保育園用地購入費として七百十八千円。

衛生費におきましては、衛生センター建設計画に伴う先進地視察旅費として二百六十万、清掃自動車購入費として三百三十万円、農林水産業費におきましては、漁船用補給施設設置事業に対する県の補助金に市費を加えて二百四十七万九千円。

土木費におきましては、今年度の国の不況対策として臨時市町村道整備事業にかかわる起債が一〇〇%の充当率で認められたことによる道路新設改良費として八千四百四十七万円。

教育費におきましては、九重小学校等用地購入費として八百一十二万八千円、市民センター電気使用料として三百六十万円。

災害復旧費におきましては、昭和五十年十一月に発生しました洲ノ宮川の災害復旧費として四百四十八万四千円であります。

これらの財源といたしましては、特定財源におきまして国、県支出金五百三十一万二千元、地方債一億一千百万円、その他五万五千元、一般財源におきまして市税、繰越金等で三千二百三十五万一千円であります。

なお、以上の歳入歳出予算補正のほかに、債務負担行為の補正としまして、環境保全公社にかかわる損失補償の額を七千万円に変更しようとするものと地方債の補正がございます。

次に議案第五十九号昭和五十一年度館山市国民宿舎特別会計補正予算であります。鳩山荘は昭和三十五年度に開設し、さらに昭和三十六年度に増築を行い現在に至っておりますが、その老朽化がはなはだしいので、今回館山市国民宿舎施設整備基金五百万円を取り崩し、建物の修理を行おうとするものであります。

以上で議案等の内容につきまして説明は終了しますが、なおこのほかにも今会期中に追加議案としまして、九月三十日をもって任期

満了となります教育委員会委員二名の選任につき議会の同意を求める議案を予定しておりますので、上程の節はよろしく御審議のほどお願い申し上げます。

以上、簡略ではございますが提案理由の説明といたします。なお詳細につきましては、関係課長等をして説明いたさせますので何とぞ十分なる御審議を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で市長のあいさつ並びに説明を終ります。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、認定第一号乃至認定第七号、報告第四号及び議案第五十四号乃至五十九号を一括して議題といたします。

議 案 の 内 容 説 明

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。
ただいま議題となりました各案件は、本日はこれが内容説明のみといたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

この際お諮りいたします。

ただいま議題となりました各案件は、朗読を省略して直ちにこれが内容説明を求めたいと思えます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

これより順次説明を求めます。まず決算認定は一号から七号までを一括して行います。

認定第一号 昭和五十年年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十年年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和五十年年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和五十年年度館山市国民宿舎特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和五十年年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和五十年年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和五十年年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

（市長半沢良一君登壇）

○市長（半沢良一君） 決算につきましての提案理由を御説明申し上げます。

顧みますと、昭和四十八年秋の石油危機を契機といたしまして発生いたしました著しい物価の騰勢は、政府の総需要抑制政策により漸次鎮静化されましたが、反面四十九年度においては実質国

民総生産が前年比において減少となり、戦後初めてのマイナス成長を記録する結果となるなど、経済諸活動は沈滞し、不況の様相が徐々に深刻化したわけでございます。

そのため、政府におきましては、昭和五十年初期から数次にわたる不況対策を実施し、景気の浮揚に努めておりますが、いまだお厳しい経済情勢の中にあることは御承知のとおりであります。

このような経済諸環境は地方行財政全般にわたり深刻な影響を及ぼし、したがって財政面においては、歳入面において従来のような大幅な自然増収が期待し得なくなった一方、歳出面におきまして高度経済成長により支えられてきた義務的経費の増大等により財政が窮乏し、その硬直化が進行するとともに、行政面においてもその財政的基盤の動搖により全般にわたり一層の見直し、合理化を推進する等地方自治全般にわたっての行財政運営の再検討が迫まられているわけでございます。

本市におきまして、昭和五十年度は前年度にも増して厳しい財政状況の中に置かれたましたが、このような諸情勢を踏まえながら、市民の行政に対する要望を的確に把握することに努めるとともに、さらに市の長期的な展望のもとに市政全般にわたり行財政の再検討を進め、事務の合理化、機械化を推進し、その効率化を図るとともに、消費的経費については極力圧縮節減し、また市税の確保、地方債の積極的活用等財源の充実、強化を図り、最小の経費で最大の効果を上げるよう努めるとともに、市民生活の安定向上を図ってまいりました。

予算の執行にあたりましては、前年の決算審査特別委員会及び予算審査特別委員会より御指摘、御要請のありました事項を十分

に配慮しながら、施政方針に述べましたように人間尊重、市民生活優先を基本理念として環境の改善、教育の振興、福祉の充実、産業の振興及び観光の開発の五点に重点を置き、積極的に行政を推進してまいりました。

なお、この間にありまして、一般会計におきましては、前年度における歳入欠陥より生じた繰り上げ充用の措置を克服し、三百八十万円余の黒字決算を遂げることができました。

また、特別会計におきましては、その運営の合理化、適正化を図り、おおむね予算どおりの執行ができたわけでございます。

水道企業会計におきましては、房州水道の市営移管が実現し、一元的な給水体制が一層充実されましたが、収益的収支におきまして五千五百三十四万円余の欠損が生じました。今後公営企業として、一層の企業努力をし、経営の合理化に努め、健全な企業運営を図ってまいりたいと存じます。

以上昭和五十年年度の決算につきまして、その概要を申し述べましたが、なお個々の施策につきましては決算に関する報告、歳入歳出決算事項別明細書等により御了承を賜りたいと存じます。

何とぞ十分な御審議を賜りますようお願い申し上げます。
報告第四号 安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出につ

いて

(農水産課長岩崎一郎君登壇)

○農水産課長(岩崎一郎君) 報告第四号安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出につきまして御説明申し上げたいと思います。まず一七ページをお開き願いたいと思います。安房中央土地改良区におきます現況といたしまして、第一の地区及び組合員の状

況でございますが、これは前年度と移動はございません。

第二番目の事業報告の内容でございますが、五十年度におきます事業といたしましては、第一番目が中央用水改良事業関係でございます。この年度におきまして三千三百六十四・六メートル、この幹線水路の工事が施行されたわけでございます。十八ページにその内容が掲げてございます。三本の幹線水路をそれぞれサイフォンの埋め込み、あるいはトンネルの巻き上げ等仕上げ工事を完了したわけでございます。

御参考までに、この経費が県営事業費といたしまして二億八千四百九十九万六千円の経費を要したわけでございます。

二番目といたしまして県営ほ場事業関係でございますが、このほ場整備に関しましては東部、西部に分かれてございます。

最初に東部地区でございますが、東部地区では五十年版として夏施行、安東、二子合わせまして三十七ヘクタールの工事が一これは面工事でございますが、完了してございます。それから西部地区におきましては、川崎地区が二十三ヘクタール、山本地区の一部が五・二ヘクタール、合わせて二十八・二ヘクタールの面工事が完了しております。

東部におきましては、県営ほ場工事費が一億七千九百六十一万八千円、西部地区におきましては、事業費が九千七百一十六万六千円要しております。これは県の費用でございます。以上のように県営ほ場整備事業東部、西部とも約六十六ヘクタールほど完了しているわけでございます。これらの事業を支援いたします中央土地改良区のそれぞれの決算の内容につきまして御説明に移りたいと思います。

二ページをお願いしたいと思います。決算の内容は土地改良区本来の運営費とそれからダム関係の事業費でございます。

この中では第一款の組合費、賦課金でございます。この賦課金につきましては本年度収入済みとなっております額が五千六百八十三万四千二百十円ほどございます。これは収納率八四・一％でございます。

次に第四款でございますが、第四款の雑収入のうち第一項雑収入第六目繰入金千二百十五万四千五百六十四円、このものは受益面積の中で農地転用等による除斥される面積でございます。そういった人たちの除斥金をいただくわけでございますが、そういった除斥金の積立額を繰り入れたものでございます。これは別途歳出面で繰り上げ償還の財源になるものでございます。

次に第五款でございますが、第五款の借入金七千四百九十九万円でございます。これは本年度ダム関係事業費——先ほど申し上げました県営事業の二億八千四百九十九万、この費用に対します二五％にあたる受益者負担金に見合う額でございます。ほぼこれに近い額が公庫より借入できるわけでございます。

なお、これにつきましては、本年三月の予算議会で債務負担行為の損失補償の議決をお願いしているものでございます。

以上、歳入では合計いたしました一億四千六百六十四万七千四百十八円、総合計収入済みの額がこれの合計額でございます。

次のページに移りまして歳出の面をお願いしたいと思います。歳出の主なものといましては、これはやはり償還金で、第五款の——六ページになろうかと思いますが、償還金でございます。これが先ほど申し上げました除斥金の繰入金を財源といた

しまして、この年度に千三百八十七万七千余円を返還しているわけでございます。

それから次に第六款の負担金でございます。このうち第一項の負担金につきましては、先ほど申し上げました補助金の残額、つまり二億八千四百九十九万六千円の四分の一に当たる受益者負担分を県に納入する額でございます。これが負担金でございます。

歳出の主なものとしては、大体そのような程度のものでございまして、それらを合計いたしますと歳出合計が一億三千八百九十三万七千五百一円と相なるわけでございます。残金が七百七十九万九千五百四十七円、これは本年度五十一年度への繰越金となるわけでございます。

以上がダム関係の決算でございます。

次に九ページのほうを開き願いたいと思います。県営ほ場整備事業のうちの東部地区関係の決算でございます。これも前回同様組合費の納入関係でございますけれども、これは年度中に四十九年度の繰越金を財源といたしまして賦課金を減額してございます。約三分の二ほど減額いたしました。本年度合計いたしました五百五十七万三千八百六十円という収入を得ております。大体収納率が九二・四％ほどになろうかと存じます。

次に主なものといえますと、やはり借入金でございます。借入金、これもダム同様工事費の約四分の一相当額を公庫資金から借り受けるものでございます。

これらの歳入の合計が五千六百九十八万六千六百九十九円と相なるわけでございます。

一〇ページ歳出に移りまして、主なものといましてはやは

り負担金でございます。負担金の納入の項でございまして、第四款負担金、これは先ほども一繰り返すようでございますが、四分の一額を県に納入する額でございます。

大体歳出につきましては主なものとしてはこの程度でございます。合わせて合計歳出が五千三百九十七万三千七百七十一円ということに相なるわけでございます。差し引き歳入残が三百万八千五百二十八円、これは五十一年度への繰り越してございます。次に一四ページ県営ほ場整備地区の中の西部地区でございますが、これの決算でございます。

まず最初に歳入面でございますが、組合費の賦課金といたしまして相当額が出たわけでございます。

賦課金の中の特別賦課金、これにつきましては減額いたしました。ゼロということでございますが、四十九年度の繰り越しがかなりあったということで、このように組合費の賦課を減額してございます。この収入済額につきまして収納率が九二・五％となっているわけでございます。

その次の歳入もやはり前回の、前の項で御説明申し上げましたように借入金でございますが、これも九千七百万に對します四分の一額の二千四百二十七万というものを公庫から借り受けているわけでございます。

最後の第五款の補助金でございますが、これは市の補助でございます。年度は少し戻りますけれども、四十九年度に施行いたしました八幡地区の面工事におきまして、八幡地区そのものの規模としては非常にでかい幹線排水路をつくったわけでございます。これにつきましてこの工事に對する受益者負担分として市が相

応額を公共事業でございまして、その中で肩がわりし、補助金として支出したものでございます。これが西部地区におきます五十一年度の特殊な内容でございます。

こういった関係で歳入の合計額が三千五百五十四万七千二百三十三円、こういうことに相なるわけでございます。

引き續きまして歳出の項でございます。

その中の第四款負担金でございますが、これも先ほど申し上げましたように九千七百万円に對する四分の一額を県に納入する額でございます。

歳出といたしましては目ぼしいものとしてはそのようなものでございまして、合計いたしますと二千七百二十五万七千五百九十九円ということになります。この関係で歳入残の差し引き残金が八百二十八万九千九百六十四円となっております。御参考までに、この残が五十一年度の繰り越しになるわけでございますけれども、あらかじめ三月の定例総会におきまして、把握できる範囲内において、五十一年度予算の中で組合費の特別負担金をゼロ計上しておるわけでございます。この関係につきましては後ほどの内容でございますので、お含みおき願いたいわけでございます。これで大体ダム関係、県営ほ場関係の五十一年度の事業及び決算内容を御説明申し上げたわけでございます。

次に二三ページ、これは新年度の事業計画でございます。

新年度の事業計画といたしましては、ダム関係で水路が二千八百八十一メートルを予定してございます。その工事費の内容は予算書の説明付記欄にもございますが、事業見込み額が一応県の費用として三億四千九百万円を見込んでおります。これは安東から

山本地区にかけての幹線水路のトンネルの掘削、巻き立て及びサイフォン等千三百一十一メートルを予定しております。残りの千五百七十メートル、これは丸山町の水見からおそらく国道の付近に達するまでの距離であろうと思います。この二つが五十一年度の事業の予定でございます。工事費が合わせて三億四千九百万円という内容でございます。

これがようやく中央ダムの水が館山市の、しかも山本の区域まで、山本のせきの付近まで予定されておるわけでございますが、この貫通見込みが早まったということがいえるわけで、ダムの水の恩恵に浴するものも間近になったわけでございます。

次に県営ほ場整備事業関係では、東部地区におきましては江田から引き続き竹原地区へとほほ安東に向かいます。三十四ヘクタールを予定しております。この工事費の見込み額が一億八千万でございます。

それから西部地区といましては、本年度は秋施行といまして、那古地区の残り九ヘクタール、それから正木地区を三十六ヘクタールばかりやるわけでございますが、これは一、二に分けて区分をいたしてやる見込みでございます。それで合計いたしまして四十五ヘクタールでございます。見込み額といましては一億二千万を予定しておるわけでございます。

このように本年度の市内に該当する総事業費は、ダム、ほ場整備事業合計いたしまして六億四千九百万円ほどに相なるわけでございます。このような事業が館山市内に落ちるわけでございます。

次にこれらの事業を支援いたします中央ダムとしての予算の内容でございますが、これはただいま決算でもお話し申し上げます。

たようにダムと、県営ほ場では東部、西部というように三つの会計に区分されて、二六ページ以降四二ページまでの間に内容が記載されておるわけでございます。したがって関係予算の中の一応一貫しているものが、共通しているものがあるわけでございます。ただダム関係の費用の中では土地改良区本来の運営管理費が計上されているのが特徴でございます。そのほかは会計共通のものとしての事業の管理費関係、償還関係、あるいは県の負担金の納入関係、歳入におきましては組合費、借入金、こういったものがそれぞれの予算の骨子でございます。

このような内容でございますので、詳細にわたりますてはかり付記説明欄にこまかく出ておりますので、それらを御覧の上、御理解賜るようお願いいたします。

以上で事業報告の御説明を終わりたいと思います。

議案第五十四号、安房郡市広域市町村圏事務組合規約の一部を改正する規約の制定について

(企画課長補佐吉田清一君登壇)

企画課長補佐(吉田清一君) 議案第五十四号の説明をいたします。

安房郡市広域市町村圏事務組合規約の一部を改正する規約でございますけれども、「第四条第五号中『共同研修』の次に『及び統一採用試験』を加え」る、こういうことになっておりますけれども、統一採用試験はいままでもその都度協議をして実施をしてきたところでございますけれども、これを規約の中で明らかにしたものでございます。

なお、第六号におきまして、特別養護老人ホームが先年完成

いたしたので、その設置、管理及び運営に要する費用の一部助成に關することを挿入したものでございます。

次に議会の組織及び議員の選出方法、第六条でございますが、第六條組合の議会の議員―組合議員でございますが、この定数は二十二人とする。これは従前と同じでございます。

第二項におきまして、「組合議員は、關係市町村の議会の議長に職にある者及び關係市町村の議会において議員の中から選挙された者一人をもつて充てる。」、これは従来は組合議員は市町村長及び議会の議長とあつたものを改めたものでございます。

それから三項で、「關係市町村の議会の議員の中から選出されている組合議員に欠員を生じたときは、当該欠員となつた議員を選挙した關係市町村の議会は、直ちに、補欠選挙を行わなければならない。」、これは補欠選挙の規定でございます。

それから組合議員の任期につきまして、第七条「組合議員の任期は、關係市町村の議会の議長にあっては当該議長の職にある期間とし、」、これは従前と同じでございます。「關係市町村の議会において選挙された組合議員の任期にあっては当該市町村の議員の任期による。」、これは市町村長が議員となっている場合を規定してあつたものを前条で議員が一人ふえることとなりますので、その任期中と改めたものでございます。

第二項で、「補欠組合議員の任期は、前任者の残任期間とする。」これは念のための規定、こういうふうな意味でございます。

それから議会の構成でございますけれども、議長及び副議長。

第八条におきまして、「組合の議会は、組合議員の中から議長及び副議長一人を選挙しなければならない。」、

第二項におきまして、「議長及び副議長の任期は、当該組合議員の任期による。」という規定でございます。

それから次は理事会でございます。「第三章を次のように改める。」、これが先ほど市長の提案理由の中にもありましたように自治法の改正によりまして、立場を同じくする市町村長が理事会を構成するということのほうに運営上公正であるという判断に基づいて新設されたものでございます。

第九条に「組合に理事会を置く。」。

二項で、「理事は、關係市町村の長をもつて充てる。」。

次に第十条であります。「理事会に理事長及び副理事長三人を置く。」、これは従前管理者、副管理者であつたものを、理事長、副理事長としたものであります。

三項で、「理事長は、理事会に關する事務を処理し、理事会を代表する。」、これは合議制でございますので、代表者を決めたものでございます。

四項で、「理事長及び副理事長の任期は、關係市町村のそれぞれの職の任期とする。」、これはほかの關係と同じでございます。それから五項におきまして、「理事会は、組合の事務を分掌させるために理事の互選によつて担当理事を定めることができる。」、こういう規定を置いたものでございます。

六項では、「前各号に定めるもののほか、理事会の組織及び運営に關し必要な事項は、理事会が定める。」としたものでございます。

次に収入役でございますが、収入役の關係、第十一条「組合に収入役を置く。」、これは従前もあつたわけでございますけれども

も、特に執行機関の中にとり項目の中に入れてあっただけでございますので、改めてここに条文として整備したわけでございます。

第二項で、「収入役は、関係市町村の収入役の中から理事会が組合議会の同意を得て選任する。」従前は管理者であつたものでございます。

なお、三項におきまして、収入役の任期二年であつたものを、これは各市町村と同じように四年としたものでございます。

次に監査委員につきましては、第十二条「組合に監査委員二人を置く。」これも従前どおりでございますが、第二項におきまして監査委員は管理者がというところを同じく理事会と、こういうふうに改めたものでございます。「組合議員及び知識経験を有する者のうちからそれぞれ一人を選任する。」と……。

それから三項で、「監査委員の任期は、組合議員の中から選任された者にあつては、当該組合議員の任期によるものとし、知識経験を有する者にあつては、四年とする。」これはいままで二年であつたものを同じく四年としたものでございます。「ただし後任者が選任されるまでの間は、その職務を行うことを妨げない」次に移りまして事務局でございますが、事務局は簡単に第一項だけしか執行機関の中になかったものですから、これを整備する意味におきまして第十三条を設けたわけでございます。

「組合に事務局を置く。」

二項で、「事務局に吏員その他の職員を置く。」

三項は、「吏員その他の職員は、理事長が任免する。」、この中身は同じでございます。

四項で、「吏員その他の職員の定数は、組合の条例で定める。」それから「第十一条」を「第十四条」としまして、同条第三項中「管理者」を「理事会」に改める。

それから「第十二条」を「第十五条」に改める。

附則といたしまして、一項で「この規約は、千葉県知事の許可のあつた日から施行する。」、これは知事の許可を必要としますので、その許可のあつた日からということになります。一応昭和五十二年度を予定しております。

二項におきまして、「この規約の施行の際現にその職にある収入役及び監査委員については、改正後の規約の規定に基づいて選任されたものとみなす。」、これは当然の規定でございます。

三項は、「必要な事項は、理事会でこれを定める。」

こういう改正をお願いしたいと思うわけでございます。以上でございます。

議案第五十五号 館山市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定

について

(防災課長羽山房雄君登壇)

○防災課長(羽山房雄君) 議案第五十五号について御説明いたします。

消防団員等公務災害補償等共済基金法の施行令の一部を改正する政令が昭和五十一年政令七十七号で昭和五十一年四月三十日公布施行されました。これにしたがいまして県の総務部長名をもって昭和五十一年五月二十五日付で条例改正についての通知があられたものでございます。

今回の改正の趣旨を申し上げますと、非常勤消防団員の処遇改善の一環として、市町村が退職消防団員に支給する退職報償金の額の引き上げに要する経費を消防団員等公務災害補償等共済基金——これを以下基金と申しますが、この共済の対象としてそれにかかわる市町村の基金に対する掛金の額の引き上げを行った、これが改正の趣旨でございます。

条例の改正の内容でございますが、基金に対する非常勤消防団員の退職報償金の支給にかかわる各年度の掛金を団員一人当たり現行では三千六百五十円であったのを今回の改正で四千五百六十円とした、これは政令の七条の三項。

それから二番目に、基金に対する非常勤消防団員退職報償金の支給額を今回の条例にあります別表のように改めました。大体平均三割上昇をみております。

これに伴いまして、先ほど申しました掛金の改正によります差額、本年度当初予算で御議決をいただきました掛金百六十万六千円との差四十万四千円を今回の予算で補正させていただくべく別途に計上してお願いしたいと思うわけでございます。

以上で説明を終わります。

議案第五十六号 館山市粗飼料等増産基盤整備事業分担金徴収

条例の制定について

議案第五十七号 字の区域及び名称の変更について

(農水産課長岩崎一郎君登壇)

○農水産課長(岩崎一郎君) 次に議案第五十六号館山市粗飼料等増産基盤整備事業分担金徴収条例の制定について御説明申し上げます。

この条例につきましては、昭和五十年から発足しております。館山市の場合昭和五十一年度、五十二年度二カ年をもって完了する事業計画を立て、承認されております。

五十一年度の当初予算におきまして、基盤整備事業といたしまして県の経費をお願いしてございますが、これらの執行に当たるに際して地元負担金として受益者から分担金をいただかなければならないし、また事業の内容そのものが市の直営事業として施行するとういう、この緊急粗飼料増産総合対策実施要綱という農林省の事務次官通達にもありますように、そのような規定に基づきまして、今回分担金をいただくための条例をお願いするわけでございます。

根拠法令といたしまして、ただいま申し上げました緊急粗飼料増産総合対策事業実施要綱事務次官通達によるものでございます。

今回これらの徴収をいたします——おいおいと御説明申し上げますが、分担金の内容につきましては第二条以降にございますがこの事務次官通達におきます事業は緊急粗飼料対策として基盤整備と、それからこの緊急粗飼料合理化対策事業と二つに分かれていくわけでございます。そのうちの基盤整備事業がこの対象になるわけでございます。

本年度はこの基盤整備も新墾開拓と既耕地の修正と二つに分かれてございますので、とりあえず本年度は予定いたしましたのは、国、県の関係で既耕地の整備事業分に限定されたいということで今回その事業の実施を予定したわけでございます。

第二条の分担金総額云々ということでございますが、これは総額をきめる内容でございます。その内容は事業費の総額から国、

県の交付を受ける補助金——今回の緊急粗飼料の場合の基盤整備は国が五割、県が二割五分、合わせまして七割五分でございます。七五%の補助金でございます。それを除いて得た額の範囲内において定めるということでございます。

三条の分担金の徴収でございますが、これは実施要綱に基づく粗飼料等の増産基盤整備事業実施の千葉県知事の承認のあった日——事業認定の指令通知があるわけでございます。そのあった日現在におけるその事業の施行に係る土地につき権利を受ける者——受益者と申しますが、受益者から徴収するんだ、こういうことでございます。大休山林、原野、こういった対象が多いわけでございます。

それから分担金の賦課基準でございますが、この分担金の賦課基準は受益者の当該事業に要する費用に応じた経費割り——これは従来とちょっと異なる性格があるわけでございまして、この基盤整備をやります現地事情というものが平たん地の農地と違いまして、かなりでこぼこの、内容が千差万別ということと一律ではないわけでございます。したがって断切りをしなければならぬ場所もありますし、場合によっては傾斜のゆるい場合には山なりに開墾、あるいは既耕地の整備をするということもできるわけでございます。そのように事業の内容が極めて変化が多いというところでございまして、一応それぞれの該当する現場の費用に応じた経費割りというふうにしてまいりたい、というふうに考えているわけでございます。数倍の較差がございまして、当然これはこのようにならなければ、市の直営事業として施行事業全体をブールというわけには、かえって平等のあれが欠くんでけないかと

いうことで、このようにひとつ内容に応じた経費割りというふうに定めたわけでございます。

第五条以降につきましては、前回小沼、坂井の土地改良におきます分担金条例の内容と同一でございます。

以上で議案第五十六号の御説明を終わりたいと思います。

次に五十七号字の区域及び名称の変更について御説明申し上げたいと思います。

先ほど市長さんの御説明にもありましたように、これは昭和四十七年度から開始されました県営ほ場整備事業の館野工区の中だけでございます。

去る三月この土地改良区の中の工区の関係者によります換地計画が持たれまして、知事よりこれらの内容につきまして、受益者による総会が持たれたわけでございます。三月の換地総会におきまして原案同意の議決が得られております。その後それらの内容につきまして個人の同意書が出ておるというふうに聞いております。

現在は仮換地でございますが、換地原案に対しまして最終段階であるそれぞれの登記の段階に入るわけでございますが、——決定の上入るわけでございますが、これらを決定するに際して旧字ではどうにもおさまりがつかないということで、この施行区域内に限って現在の字と異なった新しい字を区域としたいという依頼が知事からあったわけでございます。

その内容につきまして、書いてございます議案の中に旧字等がございまして、図面をひとつお開き願いたいと思います。この図面の中で書いてございますが、白い丸ぼちの実線でございます。

白い丸ばちの実線で区切つてあるものは、改めようとする字の中と外の境界を表します。したがつてこの中はほ場整備事業の工事がなされた区域でございます。

議案の中に書いてございます新しい大字、字、その次の欄に旧と書いて大字、字と書いてございます。それらを該当しますものは、図面の中では書きにされました中に書いてあります字名が新しい字にかえたいとするものでございます。

それでは書きのない、囲みも何も囲ってない書き捨ての字名がございますが、これは現在の旧字でございます。あくまでも工事を施行した中でございますので、区域の境界付近にあります現在の字——旧字でございますが、これがどうしても切り捨て、あるいは捨て子と申しますか、残つてしまつてございます。切り捨てられたものは、これは従来どおり現在の字がやはりそのまま残るわけでございます。

したがしまして、議案の中においてありますように、旧字の次の欄に地番と書いてございます内容は、この区域の中に、旧字名の中におさまる筆の名前でございます。該当する筆がこれだということになるわけでございます。

このように新しい字を、たとえば左の上のほうの四角い字名で囲まれた字下沢と書いてございます。これはこのへん一帯をもとの字下法久というようなものから改めまして字下沢に全部を、これだけの区域をかえたい、新しい下沢の名前にかえたいということでございます。

ただ、この例はここだけしかございませんが、三芳村から入ります区域がございます。ここに書き捨ての文字で大字本織字鍛冶

ケ作——わずかな、小さな面積がございますが、これは昨年三月の議会で町村境の変更につきまして御承認願つた場所でございます。これを館山市としてどの字にするのか、その決定がまだされてなかつたわけでございます。従来のものですと字下法久ということになるかと思ひますけれども、これも議会の決定がなければできないわけでございます。これを今回ほ場整備を機会としてこの区域内におさまるわけでございますので、新しく字下沢の中に含めたい、こういうことになるわけでございます。

このような内容でございますので、こまかな点もまだ多少ございますけれども、図面を御覧になると大体これは検討がつくのではないかと、そのように考えられますので、御十分な御審議をひとつお願いしたいと思つてございます。

これが終りまして、所定の手続きを——これは県の事業のことでございますので、県段階におきましていろいろな手続きを完了し、登記ということになるわけでございますので、よろしく御審議をお願いしたいと思ひます。

以上で終ります。

〇議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午前十一時 十五分 休 憩

午前十一時三十二分 再 開

〇議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案第五十八号 昭和五十一年度館山市一般会計補正予算（第一号）

一号

（財政課長山田俊康君登壇）

〇財政課長（山田俊康君） 議案第五十八号五十一年度一般会計補

正予算第一号について御説明申し上げます。

今回の補正におきましては、第一条にお示しいたしました歳入歳出予算に対します補正と、第二条の債務負担行為の変更、第三条の地方債の追加変更の三件でございます。

歳入歳出予算の補正は、歳入歳出それぞれ一億四千八百七十一万八千円を追加し、歳入歳出それぞれ四十六億八千六百八十五万九千円といたしたい予定のものでございます。

細部に入りますと、歳出面の追加が一億五千二百四十五万五千円で、更正額三百七十三万七千円あり、差し引きまして一億四千八百七十一万八千円となり、この一億四千八百七十一万八千円は現行予算に対しまして三・二八％となります。

補正をいたします細目につきましては、二ページから五ページまででございます予算により記載をしておりますが、こまかくは例によりまして事項別明細書により後ほど申し上げます。

第二条の債務負担行為の変更は六ページにございますので、六ページの第二表を御覧いただきたいと思ひます。今回の債務負担行為の補正は、先ほど市長から説明ございましたように、財団法人館山市環境保全公社が環境保全事業資金として貸し付けを受けたことにより、金融機関、融資機関が損失を受けたとき、その損失を従来の議決では五千万円まで補償するということになっておりましたけれども、保全公社の経営上から七千万円まで損失補償をすると変更をお願いするものでございます。従前五千万であったものを七千万へと変更をお願いするものでございます。

続いて第三条の地方債の補正でございます。これは次の七ページにございます。変更一件、新規三件。

市道整備事業関係では、国の景気浮揚策として本年度限り実施されるという臨時市町村道関係。当初予算では四千四百万円の限度額で議決をいたしておりますが、今回の県等との協議の結果総額で一億三千七百四十万円という限度額に変更をお願いしたい。起債の方法、利率、償還の方法等については、議決いただきました条件と同じでございます。

新たな起債三件のうち二件は、九重小学校用地取得、九重保育園の用地取得事業でございます。小学校関係におきましては一応七百四十万円、保育園関係におきましては七百十万円、条件につきましては同じような条件でございます。

清掃運搬施設事業といひますのは、ごみ収集車の購入にあたります財源でございますが、三百十万円。

続いて歳出の事項別明細書により説明申し上げますので、一五ページを御覧いただきたいと思ひます。

今回の補正では、当初予算に減額計上いたしました各種団体の補助金について慎重に検討した上で二十五団体についてそれぞれ必要な額を計上してございます。

諸会費におきましては、し尿処理場建設に伴います特別視察旅費、打ち切り旅費として百五万、自動車修繕等五万、百十万をお願いしてございます。

総務管理費中一般管理費におきまして、宿直の代行員賃金が年度末までの程度不足になるということをお願いいたしました。

市長交際費におきましては、し尿処理場関係に伴います渉外費として特別に必要がありますのでお願いいたしました。

負担金の総合事務組合負担金につきましては、千二百二万九千

余円。当初予定いたしました職員よりも予定外の退職者が出ましたので、このようにお願いした次第でございます。

職員互助会補助金につきましては、当初減額計上しておったものを今回お願いした次第でございます。

財産管理費におきます一万六千円は、自動車重量税の関係でございます。

交通安全対策費で減額九十八万七千円、これは交通安全対策特別交付金が減額されてまいりましたので、それに見合う工事請負費を減額したわけでございます。

一六ページ諸費におきまして三十三万五千円。防犯協力会補助金三十一万二千円、燃料費、電子複写機の委託料等でございます。徴税費におきまして二百七十六万六千円の追加をお願いいたしました。年末まで税の還付金、還付加算金等積算いたしますとおよその程度ということをお願いいたしました次第でございます。

(福祉事務所長山口 一君登壇)

○福祉事務所長(山口 一君) 続きまして第三款の民生費につきまして御説明申し上げます。

今回追加補正をお願いいたしますのは八百六十六万八千円でございまして、補正後の額を十億五千七百五十一万一千円にいたしたいものでございます。

その内容は、第一項社会福祉費第一目社会福祉総務費百八万五千円の追加でございますが、その内訳は一三節委託料、これは民生委員業務委託料六十四万四千円、現行額と合わせまして百五十三万三千九百円といたしたいものでございます。民生委員八十六名の活動費、研修費でございます。

次の母子福祉推進員業務委託料十一万一千円の追加でございますが、これも現行額と合わせまして三十四万四千八百五十円といたしたいものでございます。これは母子福祉推進員の四十三名の活動費、研修費等でございます。

ともに社会福祉協議会に業務委託をする予定のものでございます。

一九節の補助金三十七万円の追加で、これは各種福祉団体に対します助成でございますして、各団体の育成、強化を図ろうとするものでございます。

次は第二項老人福祉費第三目の老人福祉センター費八千円の追加でございますが、役務費、公課費のそれぞれの増額に伴う追加でございます。

第三項の児童福祉費第一目児童福祉総務費四十六万七千円の追加でございますが、これは補助金でございますして、青少年相談員連絡協議会に二十八万七千円、青年館運営連絡協議会に八万円の補助金の増額をいたしまして、それぞれなお一層活発な活動をお願いしようとするものでございます。

次の保育所運営費補助金十万円でございますが、これは私立保育園五園に対します助成でございますして、現行額と合わせまして八十万円にするものでございます。これは長時間保育の奨励及び保育の現任訓練に対する助成金でございます。

第三目の保育所費の七百十八万八千円の追加でございますが、これは市長の提案理由にもございましたとおり公有財産購入費でございまして、九重の安東地区の基盤整備に伴います隣接地をこの際九重保育園用地として確保しようとするものでございまして、

面積は一応千七百平米余りを予定しておるものとございます。

以上でございます。

(保健課長越路良夫君登壇)

○保健課長(越路良夫君) 続きまして衛生費中一項の保健衛生費について申し上げます。

一目一三節の委託料でございますが、十四万円を追加補正しようとするものとございます。本市地域の特性によります疾病の予防対策、なおまた衛生講演会等の開催、その他の健康教育業務を保健調査会に対しまして業務委託しようとするものの予算でございます。

二目の一二節役務費に二十七万円を追加補正でございますが、これは結核検診、あるいは胃部の集検、婦人科検診等を行うにあたりましての通知用の郵便料でございます。今後の支出を勘案いたしまして不足見込み額を今回補正するものとございます。

(衛生課長石井 謀君登壇)

○衛生課長(石井 謀君) 続きまして一七ページの二項の清掃費につきまして御説明申し上げます。

今回五百三十五万二千円の追加をお願いしたいわけでございますが、一八ページをお開きいただきたいと思います。

一目の清掃総務費におきまして三百二十八万九千円の補正をお願いしてございます。

九節旅費におきまして二百六十万、費用弁償二百三十万円につきましては、衛生センター建設にあたりまして、特にし尿処理場を重点に先進地の視察旅費として関係住民の方々、及び関係機関—関係機関といえますのは漁業関係とか、あるいは観光協会等

そういうような方々、代表者を述べ百五十人分を見込んだ額でございます。

次に特別旅費につきましては、案内に要する職員の経費を見込んだわけでございます。

次に役務費の八万九千円。通信運搬費、郵便料でございますがこれは関係地区を主体に衛生センター設置に対する協力方を要請する内容と、疑問点等がいろいろあるわけでございますが、そういうようなものを文書に表しましてこれを申し上げる予定でございます。郵便料、これは大体二回分を見込んでございます。戸数にいたしまして約四百五十戸を二回分みであるわけでございます。

次に委託料の六十万円、地下水の試掘委託料でございます。これは湧水期におきまして希釈水として水の手当を考慮いたしまして試掘する計画でございますが、これは千葉市の環境技研コンサルタントの調査の結果、豊房地区の東長田を中心に地下水が最も有力であるという診断があるわけでございます。これで百メートル程度の井戸を二本試掘したいということで、こういうことで六十万円をお願いしてございます。

次二目のじん芥処理費の欄で、補正額二百五十万円でございますが、この節の七節の賃金で百二十五万円の減額。臨時賃金、これは昨年度職員が病気で一名退職したわけでございますが、その補充として五十一年度の当初におきまして百二十五万円を計上させていただきます。次の備品購入費の関係でございますので、合わせまして御説明申し上げたいと思います。三百三十万円自動車購入費としてございますが、これはいままで二トンのダンプカーでごみの収集をしておるわけでございますが、これ

は最近ごみの量が増加したということ、また非常に質が多様化してあるわけでございます。そういうような関係でこれが作業の近代化を図るといふようなことからいたしまして、じん芥収集車一応バックマスターというところでございますが、その機械を試験的に入れて労力の節減を図ろう、こういうような考え方で、備品購入費で一台分お願いしてございます。賃金は自動車を購入することによって、いままで運転手一名とそれに助手一衛生手ですね、助手が二名ということで収集をいたしておったものが、運転手一名、助手が一名、こういうようなことで二名で作業ができて得るわけでございますので、そういうふうにかえたいということとして計上させていただいたわけでございます。

三のし尿処理費の二七節の公課費の一万三千円につきましてはいまの自動車の関係でございます。

以上よろしく願ひいたします。

(商工観光課長中村正雄君登壇)

○商工観光課長(中村正雄君) 続きまして五款の労働費、七款の商工費につきまして御説明申し上げます。

労働費に今回五十万円の追加をお願いいたしまして、四百六十四万九千円といたしたいものでございます。この内容につきましては説明欄記載のとおり、勤労者団体の育成、強化を図るということで、今回の追加を計上いたしましたわけでございます。

続きまして七款の商工費でございますが、今回の追加商工業振興費については二百四十五万九千円、観光費につきましては百八十七万五千円の追加をお願いするわけでございます。これはそれぞれ説明欄に記載のとおり委託料、あるいは負担金補助及び交付

金、二〇ページにございます一九節の負担金及び交付金につきましては、先ほど市長が説明した趣旨に基づきましての追加でございます。

なお、二〇ページの二二節補償補填及び賠償金でございますが、現在市で預託融資をしておりますけれども、返済期日を一定期間経過いたしましたにもかかわらずお借入金返済がない場合には信用保証協会が代返済をいたしておるわけでございますが、この代返済を行った場合には、その代返済額の十分の一を市が負担する、こういうことになっておりますが、今回五十一年度に入りまして百万の代返済が行われたわけでございますので、当初予算額に対して不足額十萬九千円の追加をお願いするわけでございます。

(農業委員会事務局長石原 齊君登壇)

○農業委員会事務局長(石原 齊君) 第六款の農林水産業費のうち農業委員会費でございますが、今回旅費二十六万円を補正をお願いしてございます。これは農業委員二十名の打ち切り旅費として補正をお願いしたわけでございます。

以上でございます。

(農水産課長岩崎一郎君登壇)

○農水産課長(岩崎一郎君) 続きまして農業費の中の第三目農業振興費につきまして御説明申し上げたいと思います。

今回お願いいたしますものは十四万七千円でございます。全額国の補助ということになっておりますが、これは水田総合利用対策の一部でございます。

最初に一三節委託料、これは電子コピーの額が不足いたしましたので、この程度お願いいたしたいと思うわけでございます。

一六節原材料費六万円でございますが、これは引越に伴います、現在の部屋の中の壁面を利用いたしまして、ロッカーでは費用がかり過ぎますので、木材をもって書庫をつくりたい、そのための材料の木材費でございます。

一八節の備品購入費でございますが、これは現在農用地指定区域等の図面が掲げてございますが、一年間置きますと利用関係者が非常に頻繁にまいますので、ボロボロになってしまおうという関係で、手間も細工も要りますので、図面保管庫を設けてこの中に保管したい、そのための費用でございますが、そのほか測量テープ等を合わせまして六万三千円お願いいたすものでございます。第五目の農地費につきましては、今回安房中央土地改良区に対します、支援いたします、安房中央土地改良区の経営事業の予算に対しまして、市費二百万円の補助を本年度お願いするわけでございます。これにつきましては例年やっておりますけれども、本年度当初予算でこれが計上できなかったものでございます。今回これをお願いいたしたいと思うわけでございます。

内容につきましては、先ほど事業報告の中で御説明申し上げましたように、この趣旨そのものの内容におきまして御理解願いたしたいと思います。

次に第三項の水産業費でございますが、今回二百四十七万九千円をお願いし、総額四千七百三十三万二千元にしようとするものでございます。

内容につきましては、一九節の負担金補助及び交付金といたしまして同額二百四十七万九千円を支出したいというものでございます。

これは船形漁協の、船形港のそばに燃料用——これは軽油タンクでございますが、三十キロリットルのものを一基設置したいというものでございます。これにつきましては国が対策費といたしまして四割、県が三割、この合計額が国、県支出金の財源内訳の欄にございますように二百四万一千円でございます。これに対して市が残るうち一割五分——一五%を、財源内訳の区分の中では一般財源として四十三万八千円にあたるわけでございます。これらを加算いたしまして合計八割五分、二百四十七万九千円を補助したいというものでございます。これによって漁船等の軽油利用の関係者に対し一段とこの振興策が得られるということになるわけでございますので、よろしく御審議お願いいたしたいと思います。

以上でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午前十一時五十八分 休憩
午後一時 二分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十四名、休憩前に引き続き会議を開きます。

（建設課長飯田治男君登壇）

○建設課長（飯田治男君） 二〇ページ八款土木費の補正について御説明申し上げます。

二項三目道路新設改良費につきましては、市長の提案理由の説明にもございましたように臨時市町村道整備事業債の追加によるものでございます。

一五節工事請負費に道路改良並びに舗装工事の追加補正として七千八百七十四千円計上いたしてございます。これは道路改良工事として当初六路線約五百五十五メートルの計画でありましたものに豊房三号線を追加し、七路線で約七百七十九・三メートルに、また側溝排水整備工事として市道一号線約百五十メートルを追加、舗装工事につきましては当初三十三路線で約三千七百二十メートルの計画でございましたが、市道大井一赤立線ほか二十一路線を追加し、五十五路線で約七千五百五十六・四メートルに、また、舗装補修工事として市道那古港線ほか二路線、約千五百二十メートルを追加し実施しようとするものであります。

一七節公有財産購入費七十六万一千円につきましては、四十九年度の道路改良工事による土地買収費を土地開発基金より支払ってございますので、今回補正をいたしまして土地開発基金に繰り入れしようとするものでございます。

二二節補償補填及び賠償金五百五十三万五千円につきましては、このうち百五十五万円は本年度実施の道路改良工事に伴う地上物件補償費で、残り三百九十八万五千円は一七節と同様四十九年度支払い分を土地開発基金に繰り入れをしようとするものでございます。

三項河川費につきましては、当初計画いたしておりました洲宮川の護岸工事が、昨年十一月六日、七日の低気圧による集中豪雨による災害として国庫補助が認められましたので、百五十万円の減額をいたしまして一一款災害復旧費に組みかえようとするものでございます。

次に二三ページ一一款災害復旧費の補正について御説明申し上げます。

けます。

二項一目土木施設災害復旧費四百四十八万四千円につきましては、河川費のところでは御説明申し上げました洲宮川の護岸工事は、河川災害復旧工事として、左岸延長五十・四メートルにコンクリートブロック積みを実施しようとするもので、工事費四百二十万、事務費二十八万四千円をそれぞれ各節に計上してございますので、説明欄により御了承いただきたいと存じます。

(防災課長羽山房雄君登壇)

○防災課長(羽山房雄君) 九款消防費について御説明申し上げます。

今回の補正で百三万三千円をお願いするわけでございます。

その内訳といたしまして、八節の報償費におきまして五万五千円、これは五十一年三月三十一日をもって退職いたしました消防団員、十年以上のいわゆる基金の該当者三名分の退職報償金でございます。

なお、この該当の五万五千円の歳入も、基金からの歳入を同様に雑収入に見込んでございまして、付け加えます。

次に旅費の十八万二千円、これは団員幹部の特別旅費でございます。

次に一九節の負担金で七十五万一千円をお願いいたしました。先ほどの議案説明で申しましたように、消防団員等公務災害補償等共済基金に対する負担金四十万四百円を計上させていただきます。

それから交付金として三十五万円、これは千葉県消防協会館山

それから二七節の公課費におきまして四万五千円、これは消防ポンプ自動車、今年度の対象十四台の値上がりによる不足分を四万五千円計上させていただいたわけでございます。自動車重量税の不足分でございます。

(教育委員會庶務課長汐崎政光君登壇)

一項二目事務局費の中の一九節負担金補助及び交付金におきまして、市教育研究会補助金としまして三十万円追加計上させていたどきました。市教育研究会は市内の小学校、中学校、幼稚園の全教職員を対象としまして組織されているものでございますが、現在市内の研修活動は代々この組織を母体として展開されておりまして、こういった関係で当初予算におきまして昨年度の二分の二であります三十五万円計上させていただいておりますが、今回三十万円の追加をお願いするものでございます。

それから二項の小学校費におきまして、一目の学校管理費の中で、二七節の公課費としまして二万一千円追加計上いたしました。

それから三目の学校建設費の中の一七節公有財産購入費として八百二十二万八千円予算計上させていただいてありますが、九重の安東地区で現在ほ場整備が遂行されております。これに隣接します耕地千九百三十四平米を九重小学校の校地拡張のため購入させていただきたい。この金額七百七十三万八千円と、昨年度富崎小学校のプールを建設しまするにあたりまして、隣接の土地五十平米を土地開発基金で購入させていただいてあります。今回その代価四十八万九千九百円を合わせここに計上させていただいて開発基金に繰り入れさせていただきたい。こういった趣旨の金額でございます。

(社会教育課長川名 備君登壇)

一目の社会教育総務費でございます。今回新たに百二十二万五千円の追加補正をお願いしたいわけでございます。

その内訳でございますが、まず初めに国、県の支出金の二十万でございますが、これは今度新しいふるさと運動の委託というのが館山市にまいりました。これは国五十万、県が五十万の百万事業でございますが、千葉県下で五市町になりますか、野田、習志野、旭、九十九里、館山と五つの市町が指定の対象となつておるわけでございます。趣旨は地域住民の連帯意識を高め、住みよい地域社会づくりを促進するために新しいふるさと運動を強力に推進す

る、その業務を委託するということでございます。

内容と申しますと、まず二つございますが、一つは地域の伝統文化の継承、発展を図る事業、それから二つ目に地域の豊かな生活環境の醸成を図る事業、郷土芸能であるとか、工芸など、文化の継承、あるいはそういったものの発表とか、歴史、自然の学習であるとか、あるいは花いっぱい運動であるとか、河川の清掃美化であるとか、敬老、あいさつ運動、親切運動など、そういったことでございます。

指定の期間は今年五月一日から五十二年の二月二十八日までが期間になっております。

なお、それらのことにつきまして、八節の報償費について十八万、一節の需用費について一万七千円、使用料及び賃借料で三千円、計二十万円。これらの使途につきましては、契約の使途の条件と申しましょうか、こういったことに使途するようにと、そういう条件がございますので、それに従って組んだわけでございます。

なお、これは一三ページの歳入のところにも盛り込んでございますので申し添えます。

次に一九節の負担金補助及び交付金のうちの補助金関係でございますが、総額百二万五千円。

最初に婦人団体等の助成でございますが、現在婦人団体には九地区の団体がございまして、いろいろの本来の目的に沿った活動がされておるわけでございます。そういった団体につきまして昨年度の二分の一相当額ということで当初予算に三十七万五千円お認めいただいておりますが、新たに二十七万五千円

の追加補正をお願いして、婦人団体のほうに本部費として十二万九地区の各地区単位に二万ずつの十八万で婦人団体関係で三十万の助成をしたい。

なお、それと並行いたしましたして、主婦クラブというのがございますが、現在三十五団体あるわけでございます。これにつきまして一団体一万ずつということで三十五万、合わせて六十五万の助成方お願いしたいわけでございます。

次に青年団体等の助成でございますが、これも当初二十五万いただいておりますけれども、いろいろな活動を盛り上げていく上で、いま青年団のほうが大団体ございまして、予算規模大体百七十万で活動しておるわけでございますが、それらについての助成、当初予算と合わせましてそこに三十五万。

それからいま一つ青年サークル——いろんなグループがございまして、レクリエーションであるとか、いろんな研修活動等進めておるわけでございますが、それらのものがそれぞれ三万から七万ぐらいの予算規模で各サークルが活動しておりますので、そこに十万円助成させていただいて、合わせて四十五万の規模で青年団関係の活動を盛り上げてまいりたい。

次に文化団体連絡協議会の助成でございますが、文化団体は現在二十七団体加盟があるわけでございますが、文化祭の参加、実施とか、あるいは加入団体それぞれの展覧会とか、発表会、講演会等、お互いの連携を保って極めて自主的に充実した活動が続けられておるわけでございますが、今後一層文化活動の発展と市民文化の向上といった観点から、新たに五万円追加補正いただいて十万の規模で助成してまいりたい。

次に館山市音楽鑑賞協会の補助金でございますが、当初予算で五十万お認めいただいております。従来も小、中学校の生徒をいろいろと参加を要請していただいております。でございますが、もっとそういったことを強力に進めて、教育の一環として小、中学校の生徒にぜひこういったものを鑑賞を通してそういった層の底辺の拡大と申しましょうか、そういったことを進めてまいりたいということ。それからいふ一つ、こういった自主団体の事務局、それをいまままで教育委員会の社会教育課のほうで担当しておったわけでございますが、おおむね一年間経過いたしました。軌道に乗ったところでございますので、本来の姿である民間委譲ということを考えております。そういったことで新たに五十万助成していただいて百万の事業としていただきたい。以上でございます。よろしく願いたいと思います。

(市民センター館長角田 巖君登壇)

○市民センター館長(角田 巖君) 引き続きまして第五目市民センター施設費につきまして御説明申し上げます。

今回の補正で三百六十万の追加をお願いしようとするものであります。

その内容は、一一節の需用費におきまして三百六十万円を計上いたしました。これは先般設置していただきました冷房等の関係による、電気の増設によるものと、今回電気料の大幅な値上げによりまして不足を生じますのでお願いするものでございます。

どうかよろしく願います。

(体育課長川上賢爾君登壇)

○体育課長(川上賢爾君) 二三ページを御覧いただきたいと思います。

ます。今回お願いいたします補正額は三百四十万五千円でございますが、内訳について御説明申し上げます。

八節の報償費十萬、それから一一節の需用費一万五千円、それから一五節の工事請負費三十八万五千円、計五十万円でございますが、これは市内の篤志家から体力づくりのために役立ててほしいということで寄付があったわけでございます。御本人の御意思を生かすために海岸通り七キロのコースと、それから中央公園を起点として子供、婦人対象の五キロメートルコース、それから一般対象の十二キロメートルの歩こう走ろうコースを設定いたしました。市民の体力づくりに供したいとするもので、標識の掲出工事が終了した時点で歩こう大会を計画して実施しようとする経費でございます。

それから一九節補助金でございますが、二百九十万のうち二十万は市の体育協会に交付するもので、当初二百一万四千円いただいております。これは十七競技団体がそれぞれ開催いたします百四十回にわたる各種のスポーツ大会や、スポーツ教室等で普及のための事業に要する経費が主たるものでございますが、今回お願いいたします二百万円は、来る十月の二、三日の二日間におきまして千葉で開催いたします第二十九回の県民体育大会の秋季大会に館山市の代表として出場する選手二百四十四名の派遣旅費と、それからさらに勝ち進んだ場合の宿泊費の補助でございます。

なお、ユニフォームが六年目になりますので、これを新調してユニフォーム代の補助といたしまして五十五万四千円、計二百万円をお願いしようとするものであります。

次にスポーツ少年団の育成事業補助七十二万円でございますが当初九十万円の議決をいただいて、本部事業といたしまして市内のソフトボール大会、剣道大会、そのほか少年サッカー大会や少年野球大会——これは先般優勝しまして御承知のとおりでございますが、そのほか全国の武道大会等の派遣費と大会事業費でございます。

なお、そのほか研修費といたしまして、全国のスポーツ少年団のリーダーの養成講習会とか、あるいは関東大会、県のスポーツ少年指導者講習会の派遣費、それから先般行われました日独交流事業、あるいは日光、今市、会津若松等のスポーツ少年団との交流費でございますが、今回お願いする補正額七十二万は、スポーツ少年団に義務化されておりますが、国民体力テストの実施に要する費用と、五十九の単位団活動費、並びにモデル実験団の振興費、並びに事務費等をお願いするものでございます。

次に婦人スポーツクラブの補助金十八万でございますが、当初二十二万五千円を議決いただいて、各地区の交歓大会の運営費、あるいは審判や指導者の養成、講習会、スポーツ教室等に出費中のものでございますが、今回十八万の補正をする内訳は、大会の運営等の事前の打ち合わせ会議等の旅費や郵便料、年二回機関紙を発刊しておりますが、これに要する印刷のための更紙代、並びに第七回の総合的な館山市の婦人スポーツの親善バレー大会、それから十月に県の婦人スポーツ大会がございますが、これに出場する激励費と、それから県内の先進地交流バス代等をお願い申し上げます。

以上よろしくお願いいたします。

(財政課長 山田俊康君登壇)

○財政課長(山田俊康君) 以上で歳出の説明を終らせていただきます。歳出の補正総額は一億四千八百七十一万八千円ということになります。

引き続きまして、二ページをお開きいただきたいと思います。

一ページ歳入。最初に市税ですが、市税総額で今回補正をお願いいたしましたのは二千八百五十四万二千円を追加いたしております。

そのうち市民税におきまして、市民税個人千九百九十一万五千円。説明欄にあります調定額五億七千八百八十八万三千円掛ける〇・九八八一と書いてありますけれども、これは徴収率であります。今回当初予算に計上してございました徴収見込み率、市民税の個人にありましては従前当初予算には九・一七というような数字で出ておりましたけれども、現実に徴収率も多少下がっておりますので、四十八年、四十九年、五十年、三カ年の平均徴収率を出しまして、各税目について市民税、固定資産税、軽自動車、都市計画税、それぞれ徴収率を三カ年平均徴収率に改めてございます。なお、市税関係におきましては、五十一年四月十二日の市税条例の一部改正によるものの一部を計上してございます。

固定資産税で現年課税分千二百六十万、国有資産等所在市町村交付金及び納付金で三百六万、軽自動車税五百六十九万五千円、都市計画税が減額になりました千二百七十三万六千円——これは負担徴収率が今回設けられました、それと徴収率の低下というようなことからこのような数字になります。

続きまして二ページ、七款の交通安全対策特別交付金、一〇

款の国庫支出金、一一款県支出金、それぞれ歳出で御説明申し上げましたそれぞれの科目に対応するものでございます。

寄付金、一般寄付金九十九万三千円、繰越金、今回前年度繰越金三百八十万三千円予算化したしました。諸収入、消防共済基金収入ということで、市債で一億一千百万円、これもそれぞれの歳出で申し上げましたような次第でございます。

財源の内訳といたしましては、一般財源で三千二百三十五万一千円、今回補正いたします一億四千八百七十一万八千四百のうち二一・七五%、特定財源といたしまして七八・二五%というような数字になります。

歳入の説明を以上で終らせていただきます。補正総額は当然一億四千八百七十一万八千円ということになるわけでございます。

議案第五十九号 昭和五十一年度館山市国民宿舎特別会計補正

予算(第一号)

(鳩山荘支配人飯田忠男君登壇)

〇鳩山荘支配人(飯田忠男君) 三〇ページをお願いいたします。

国民宿舎特別会計補正予算第一号、議案第五十九号につきまして御説明申し上げます。

今回補正をいたしますものは、先ほど市長より提案説明がありましたように、経営費の第一五節工事請負費五百万円を建物等修繕工事として計上させていただきます。この財源につきましては国民宿舎施設整備基金より繰り戻しましてこれを充当するものであります。

以上説明を終わります。よろしくお願いします。

〇議長(吉田勇治郎君) 以上で各案件の説明は終わりました。

休 会

〇議長(吉田勇治郎君) お諮りいたします。

議案調査のため明九月十四日から九月十六日までの三日間休会いたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

〇議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって明九月十四日から九月十六日までの三日間休会することに決しました。

延 会

〇議長(吉田勇治郎君) 本日の会議はこれにて延会いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

〇議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

次会は九月十七日午前十時開会といたします。その議事は通告による行政一般質問といたします。

〇本日の会議に付した事件

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、認定第一号乃至認定第七号、報告第四号、議案第五十四号乃至議案第五十九号

一、休会

